■活動レポート

■学芸員室より
田口君、野依科学奨励賞受賞！

藤井　忠志（学芸第三課長）

「先生、野依賞とれました！」電話のむこうで、にこにこしている顔が見えてくるような明るい声でした。電話の主は、田口晃太郎君という北松園小学校６年生で、毎週のように博物館に来館する「博物館っ子？」ともいえる熱心な児童です。将来の夢も、「僕は博物館の学芸員になりたい！」と、胸を張っていいきるほどです。

野依賞とは、2001年ノーベル化学賞受賞者の野依良治博士と国立科学博物館が制定した博物館の達人という、博物館等を利用した10回分の学習記録と感想文または小論文を提出した小中学生に与えられる賞です。昨今の自然科学離れに歯止めをかけ、科学する心を育てるというねらいが根底にあります。

今回は全国から108組の応募があり、最終選考に残った12組の中から、８組が奨励賞を受賞しました。

晃太郎君は「トウホクサンショウウオの観察」というテーマで、北松園のひょうたん池に棲むサンショウウオの生態観察を１年間にわたり行いました。その中でこれまで未解明なバランサーという平衡桿の発生・消滅、そしてその働きに焦点をあてた内容に仕上げました。

論文を仕上げるにあたり、私たち生物部門のスタッフがアドバイス・チェックを入れ、三度ほど書き直しをしました。最後の書き直しには、晃太郎君も辟易してましたが、励ましのことばを与え勇気づけました。2005年３月27日(土)に晃太郎君は、お母さんと弟の拓ちゃんと上京し、国立科学博物館の表彰式に出席しました。「恐竜展がすごかった！」と拓ちゃん。

受賞作品概要では、次のように評価されています。「観察は、屋内での孵化に成功した２匹について行った。採取した卵のうの様子や卵の中の様子、孵化後のバランサーの発生や前足・後ろ足の発生の様子などを、イラストとともに詳細に記録している。また、観察によって生まれた様々な疑問とそれに対する推測も行い、最後に自分たちを取り巻く環境についての提言がなされている」と。

晃太郎君にとっては２度目の応募とはいえ、岩手県初の受賞に拍手を送りたいものです。よくやった！晃太郎!!

野依博士と田口晃太郎君　2005. 3. 27 撮影

■新任職員と転出・退職者

当館では、平成17年度の定期人事異動等により、５名の職員が転出・退職し、新たに５名の新任職員を迎えました。次に新任職員を紹介します。

新任職員氏名

①現職　②前職　③抱負など

鎌　田　　勉（かまた・つとむ）

①主任専門学芸調査員（考古学部門）

②岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課文化財専門員

③今後も博物館がより多くの人々に親しまれ、郷土を愛する心を育むことができるよう微力ながらがんばりたいと思います。

伊　藤　浩　之（いとう・ひろゆき）

①学芸調査員（民俗学部門）

②岩手県立盛岡北高等学校教諭

③生まれ育った郷土岩手の民俗・伝統の保存に努め、広く皆様に知っていただけるようがんばりたいと思っております。

柳　田　幸　恵（やなぎだ・さちえ）

①主事（管理課）

②(財)岩手県文化振興事業団総務部主事

③県民の皆様に繰返し来館していただけるよう、身近な博物館となるよう微力ながらがんばりたいと思っております。

生　田　恵理子（いくた・えりこ）

①解説員

③知的好奇心をくすぐるような解説ができるよう、日々がんばりたいと思います。

畠　　香奈子（はた・かなこ）

①解説員

③お客様の「そうだったんだ」という新たな発見を引き出せるよう、おもしろい解説を心がけていきたいと思います。

転出者・退職者は次のとおりです。

横山文彦(管理課主任主査・退職)／窪田大介(学芸調査員・岩手県立盛岡工業高等学校教諭へ)／湊谷陽子(解説員・退職)／村井水智(解説員・退職)／小原祐子(期限付職員・退職)

■新種のクジラで文部科学大臣表彰

平成17年４月20日、当館大石雅之上席専門学芸員が、和田志郎氏（中央水産研究所）と山田　格氏（国立科学博物館）とともに、「ナガスクジラ属の分類学に基づく新種ツノシマクジラの研究」で文部科学大臣表彰「科学技術賞」(研究部門）を受賞しました。